

授業科目名	6. フードシステム学(フードシステム学特論)
授業形態	講義
単位数	1単位
時間数	11.25時間(100分授業×7回)
担当教員名	中嶋 康博
担当形態	単独
【授業のテーマ及び到達目標】 現代の食と農は大きな曲がり角に直面している。これからの行く末を見通すために、食と農、そしてそれらを支える社会的枠組みの現状と課題をフードシステム概念を通して学ぶ。食生活の変化、食をめぐる産業、社会的に必要とされる制度の実態と背景を社会科学的視点、特に経済学的視点に基づいて、理解して考察できる思考方法と専門知識を身に付けることを目的とする。	
【授業の概要】 授業全体を通して考えるための基礎であるフードシステムの枠組みと機能を紹介する。その上で、わが国と世界の食料消費が戦後どのように変化したかを確認し、近年の特徴を述べる。次に、それらの食を支える農業、食品製造業、流通業、小売業の実態を産業構造および産業組織という観点から説明する。さらに近年、消費者の最大の関心事項である、食の安全制度と表示制度を取り上げて、その枠組みと社会的課題について考察する。最後にSDGsを目指す中で世界が直面している食料問題と環境問題のジレンマおよびそこでフードシステムが果たすべき役割について学び考える。	
【授業計画】	
第1回	フードシステムとは何か
第2回	日本と世界の食料消費の動向
第3回	フードシステムの経済構造
第4回	農産物流通機構と価格形成
第5回	食の安全と認証制度
第6回	食品の規格と表示
第7回	食料問題とフードシステム
【授業外学習】 教科書のほかに授業時に配布する論文等の教材を講読すること。レポートの作成に向けて、参考文献等を講読すること。	
【教科書】 時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博『フードシステムの経済学(第6版)』医歯薬出版、2019年。統計データが古いため、旧版は避けること。	
【参考書】 ルース・ドフリース『食糧と人類』日経ビジネス人文庫、2021年	
【教材】 適宜資料を配布する予定。	
【成績評価の方法・基準】 授業への参加態度(50%)および提出されたレポート(50%)により評価する。	
【備考】 特になし	